登別市男女共同参画情報紙

アンダンテ

君と僕　互いの力生かし合う
共同参画パートナー

「アンダンテ」…「歩くくらいの速さで、ゆっくり演奏」という意味の音楽記号
男女共同参画の理解や取り組みが「じっくりと自分のペースで進むように」という期待を込め、名付けました。

No.21

～性別や年齢の違いを超えて、男女が平等に
そして、自分らしく生きていくために～

男女共同参画社会に向けた作品展

登別市では、男女共同参画社会について家庭や学校、職場、地域で考えるきっかけとしてもらうため、標語や習字、ポスターなどで男女共同参画社会のイメージを自由に表現した作品を募集し、市民会館に募集作品全てを展示する作品展を開催しています。

令和６年度は、市内外の小・中・高校生から標語 169 点、習字 611 点、ポスター9 点が寄せられました。

その中から、**ポスター・標語・習字の最優秀作品** を紹介します！

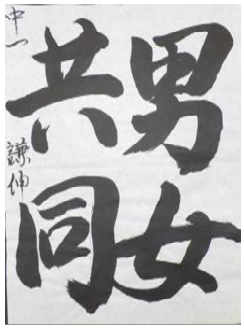
鷲別中学校　伊藤　珠菜

その個性
あなたらしさは
宝物
幌別西小学校四年
楠本　理紗

「男女」じゃない
自分の個性
大切に
幌別西小学校五年
工藤　希生

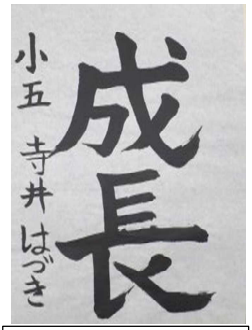
支え合い
みんなで仲良く
良い未来
幌別西小学校六年
武田　彩加

登別明日中等教育学校　六回生
寺沢　美柚



登別明日中等教育学校　一回生
寺沢　謙伸

鷲別小学校
6年
三浦　凛々奈



幌別西小学校
5年
寺井　はづき

若草小学校
４年
山田　奈桜

令和６年度 登別市男女共同参画社会に向けた作品展表彰式

市内外の児童・生徒から応募いただいた「標語・習字・ポスター」の 789 点の作品から入賞作品 41 点を選考し、12 月 14 日（土）市民会館中ホールにて表彰式を執り行いました。

当日は３４名の受賞者の児童生徒とその保護者の方々が集まり、小笠原市長より受賞者一人ひとりに賞状を、登別市男女共同参画社会づくり推進会議　千葉早苗委員長より記念品のフレームが手渡されました。

また、表彰式終了後には、登別市男女共同参画社会づくり推進会議委員が作成したジェンダー平等の啓発スライドで子どもたちにも分かりやすく、楽しめる講演を行いました。

子どもたちには、ジェンダーにとらわれず、相手を尊重し、自分らしく生きることについて考えるきっかけになればと願っております。

登別市男女共同参画フォーラム 2024 開催！

日　時：令和 6 年 12 月 14 日（土）
　　13 時 30 分～15 時 00 分
会　場：登別市民会館　中ホール
テーマ：医療におけるジェンダー問題～医療者・患者としてそれをどう乗り越えるか～
講　師：日本医療大学　教授　林　美枝子　氏

登別市男女共同参画社会づくり推進会議が主催し、北海道立女性プラザ連携事業として「男女共同参画フォーラム 2024」を開催、５１名の参加がありました。

林美枝子氏の講演では、医療とジェンダーというテーマを選んだのは登別市が初めてだったと話されていました。家族を自宅で介護することが難しくなり、社会で引き受けるようになった経緯があるものの、これからの多死社会に向けて自宅に死を戻し、住み慣れた地域でその人らしい最期を迎える「地域完結型社会」の必要性が語られました。また、病気を治療対象とする「疾病」と、社会的・文化的に捉える「病い」の二つの視点や、医療父権主義が「医師＝男性」「看護・介護＝女性」というジェンダーバイアスを生んだ背景についても触れ、医療が共生社会を支えるための在り方が示されました。

参加者のアンケートから

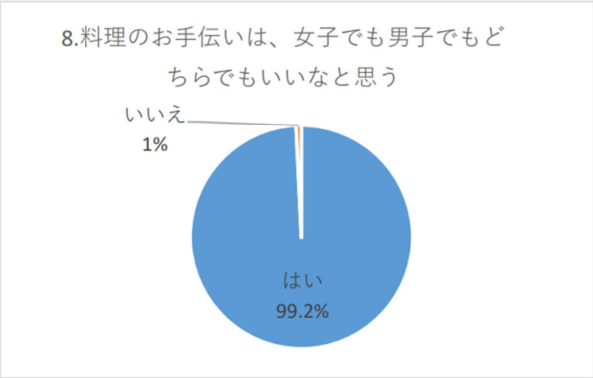
- ●医療における新たな学びを得ることができました。
- ●林先生の講演、貴重な知識を惜しみなく伝えていただき、学びになり面白かったです。
- ●男女共同参画の必要性を強く感じた。

など、たくさんの感想をいただきました。

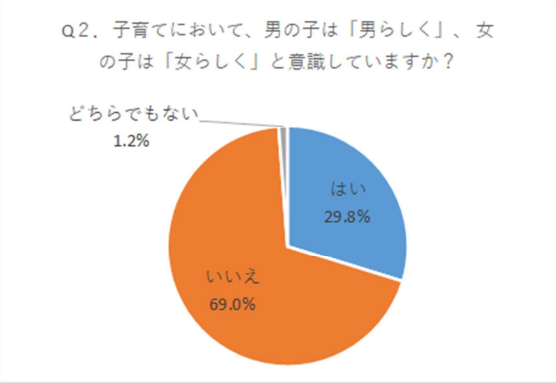
小学4年生向け啓発冊子「あなたらしく、自分らしく！」アンケート結果

登別市では、男女共同参画冊子「あなたらしく、自分らしく！」を**小学４年生**に配布しています。また、児童と保護者を対象に「男女共同参画への意識を把握することを目的としたアンケート」を実施しましたので、集計結果を抜粋してご紹介します。

●児童アンケート回収率93.4%



●保護者アンケート結果（回収率 30.5%）



●アンケート結果から

児童アンケートでは、99%の児童が、社会的な固定観念による役割に捉われていないことがわかります。

保護者アンケートでは、「初めて子供とジェンダーについて話し、考えを聞く機会ができて良かった。」、「どの子も自分らしく、生きていって欲しいと感じました。」などのご意見をいただきました。

～地域で活躍する女性へのインタビュー

地元でカフェ（SUNDAY POOL COFFEE）を経営している

二瓶　里菜さん　にお話をうかがいました！

Q 起業を考えた時期と、地元で起業した理由を教えてください。

A 高校時代からカフェ巡りをし、いつか珈琲店を開きたいと思っていました。
地元を離れてしまう友人たちを引き留める術のひとつとして楽しい場所を地元に作れたらと考えていました。

Q 女性だった故の大変さ・良かったことは？

A 良かったことしかないです。
若い女性で起業家ということで多くの人が応援してくれました。手伝い・イベントの場所の情報・仕入れ先の紹介・仕事をいただいたりと、女性で良かったと思います。
出会いと人とのつながりがなければ今の私はないと思います。

Q 起業までの経緯は？

A 高校卒業後、スーパーやスポーツ用品店に数年勤め、飲食店の知識や経営の勉強をした後、思い切って軽自動車での移動販売に踏みきりました。
自分でブレンドしたコーヒーで十分な味を引きすことができたので自信を持って起業しました。
最初は、商業施設や学校で出店し、移動販売により各地でのイベントに１年半ほど参加した後、ブレンドコーヒーに特化した珈琲店をオープンしました。

Q 起業までの苦労は？

A 移動販売の時は冬の寒さが、店を構える時は資金繰りが大変でした。
コーヒーカップなどはアメリカの輸入雑貨で揃え、お店の看板やコースターなどは手作りで用意しました。
人を雇う余裕がないので一人でやることにしました。

Q 今後の展望や目標は？

A ブレンドコーヒーを広めたい、楽しい場所を作りたいという思いがあります。お店が休みの時にはイベント出店も積極的に行いたいです。
将来的には２号店を出せたらと考えています。
もし起業したいという人がいたら、若くて自由が利くうちにしたほうがいいと思います！

「のぼりべつ女性防災ネットワーク会議」を開催しました！

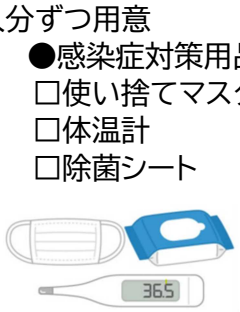
令和7年2月1日（土）、登別市総合防災訓練にあわせて、女性の視点から防災を考える「のぼりべつ女性防災ネットワーク会議」を開催しました。女性を中心に保健師、警察官、自衛隊員、消防団員や市職員等が参加し、総合防災訓練にて、寒さ体験や段ボールベッド等の設営を体験した後、会議にてそれぞれの立場から女性の防災について意見交換を行いました。

会議では、被災時に避難所でコミュニティを作ったり、女性同士のミーティングの場を持つことが必要であるという意見がありました。また、避難所開設運営訓練で体験したパーティションについて、周りの人が上から見ることができ、支援者等の様子を確認できるという安心感がある一方で、知らない人からも覗かれてしまうという不安についての感想が多くありました。自分自身でできる備え「自助」や被災時にコミュニティを作り支え合う「共助」の重要性について確認しました。

非常持ち出し品　避難するときに最初に持ち出すもので、必要最小限のものを用意しよう！

●自分に必要なものを選び、持って行動できる量にする　※1人分ずつ用意

☐飲料水
☐非常食（未調理で食べられるもの）
☐懐中電灯・ヘッドライト
☐防災ラジオ（小型・多機能型）
☐防災ずきん・ヘルメット
☐貴重品（通帳や保険証の写し）
☐着替え（体温調節できるもの）
☐持病の薬（お薬手帳写し含む）
☐雨具（レインコードなど）
☐タオル類
☐軍手
☐救急セット
☐筆記用具
☐予備の乾電池
☐携帯トイレ
☐スリッパ
●感染症対策用品
☐使い捨てマスク
☐体温計
☐除菌シート



高齢者や女性、乳幼児、アレルギーのある方など

●高齢者・障がい者など
☐成人用おむつ
☐服用中の薬
☐メガネ
☐補助具（つえなど）
☐入れ歯

●乳幼児・妊婦・女性など
☐ミルク（粉・液体）
☐使い捨て哺乳瓶
☐おむつ・おしりふき
☐離乳食
☐おもちゃ

☐母子手帳
☐ブランケット
☐生理用品（ライナー含む）
☐おやつ
☐スキンケア用品

※アレルギー症状をお持ちの方はアレルギーに対応した食料の備蓄をしておきましょう。

避難所でこんな時に困った！【体験談より】

・赤ちゃんの授乳の時に目隠しになる場所がほしかった。
・着替え用の部屋はあったが、覗かれるかと思い怖かった。防犯ブザーがあれば良かったと思った。
・女性用仮設トイレを離れた場所に設置してくれたけど、遠くて暗くて怖かった。
・赤ちゃんが夜泣きするので夜中に寒い真っ暗な外に出てあやさなければならなかった。赤ちゃん連れ用の場所がほしかった。
・女性専用スペースがあれば安心と思った。
・生理用ナプキンが1セット支給されたけど足りなかった。

問合せ先　登別市市民生活部市民協働グループ
〒059-8701　登別市中央町6丁目11番地　　TEL：0143(85)2139
FAX：0143(85)7674　Mail：simin_danjyo@city.noboribetsu.lg.jp
登別市男女共同参画情報紙「アンダンテ」第21号　　発行日：令和7年4月
企画・編集：登別市男女共同参画社会づくり推進会議　アンダンテ企画・編集委員一同